ちょっと名大史

208

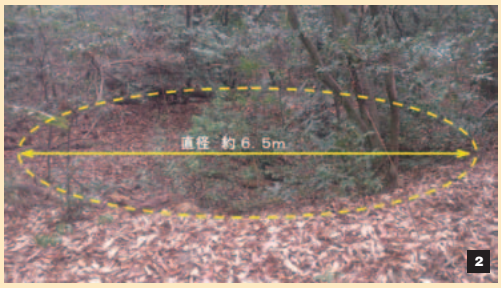
東山キャンパスの爆弾穴 ― 今も残る空襲の痕跡 ―

名大構内に残る空襲に関わる遺構といえば、宇宙地球環境研究所豊川分室の豊川海軍工廠施設跡が有名ですが、東山キャンパスにも僅かに空襲の痕跡が残っています。投下爆弾によってできた穴です。

これらは、1945(昭和20)年3月25日の空襲によるものです。敗戦直後の航空写真を見ると、現在の東山キャンパス内に多くの爆弾穴を確認することができますが、現在では、それらのほとんどは埋められています。しかし、最近の調査により、3つの爆弾穴が今も残っていることが分かりました。

3つの爆弾穴は、いずれもキャンパス東端部にあります。2つは研究所共同館Ⅱ及び未来材料・システム研究所総合研究実験棟の付近、1つはリサーチャーズビレッジ東山の付近です（図1）。いずれも森林の中にあり、キャンパスの開発区域から外れたために残ったのでしょう。70年以上が経過したことにより風化が進んでおり、穴の直径は5.5～7.5m程度、深さは1mほどになっています。穴というより窪みに近い印象です。

ところで、当時の東山キャンパス付近は何もない所で、通常であれば爆撃の目標にはなりにくい地域です。最近のアメリカ軍資料の調査により、アメリカ軍はこの一帯について「Probable military storage area」と認識していたことが分かりました。つまり、軍の倉庫地区だと推測していたのです。名古屋帝国大学の校舎が東山に少しずつ建ち始めたのは1942年からであり、しかも戦時中のため、木造の簡易な建物ばかりでした。東山キャンパスが空襲された理由は、このアメリカ軍の勘違いなのかもしれません。



1　赤い丸が爆弾穴の位置。なお、本文の記述や掲載図及び写真は、立花健二氏の調査報告による。詳しくは『名古屋大学大学文書資料室紀要』第27号（学術機関リポジトリでも公開）を参照。
2　東山キャンパス内の爆弾穴の1つ（研究所共同館Ⅱ及び未来材料・システム研究所総合研究実験棟付近のもの）。
3　敗戦直後に残っていた現在の東山キャンパス内の爆弾穴を、2007年撮影の航空写真（国土地理院提供）上に示したもの。黒い丸が爆弾穴の位置。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内　名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む
NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

■ 詳しくはホームページをご覧ください。
名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/
アクセスはこちらから